



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.46 2017.11

目次	
巻頭言	2
特集 第3回 POP コンテスト	3
本との出会いを楽しむ<19回>	7
図書館に関する話題<19回>	8
デジタルアーカイブの紹介(阿仁鉦山関係絵図)	10
Library News	11
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11



## 読書雑感

理事（総務担当）・副学長・事務局長 加藤 健



「豊泉」巻頭言の依頼を受け正直悩んでしまいました。ここ暫く本というものを読んでいないのです。図書館の機能は高度化・多様化しており、何も「図書館＝読書する場所」という単純な等式に固執する必要は無いのでしょうか、これ以外で図書館を語れるほどの素養も持ち合わせておりませんので、「読書」をテーマにした私のこれまでの貧相な体験談にしたいと思います。

若いうちはそれなりに読書はしたと思います。高校在学中当たりから就職当初の頃は、太宰治、坂口安吾など「無頼派」と呼ばれる作家の作品を好んで読みました。特に太宰。「人間失格」の最後、バーのマダムが「葉ちゃんは・・・神様みたいないい子でした・・・」という件は、読み終えた瞬間本当に全身が震えたのを覚えています。それ以降、彼の出版本は片っ端から購入し貪るように読んだものでした。当時はほかにも安部公房や大江健三郎なども良く読みました。その後は推理小説に嵌まり、特に日本では鮎川哲也が好きで、この作家の作品は殆ど読破したと思います。鬼貫警部シリーズは本当に面白かったな。結婚後は妻の影響で海外モノにのめり込み、S. King、D. R. Koontz などのモダンホラーや、Patricia Cornwell の検死官シリーズなど、実にたくさんのサスペンスものに夢中になりました。

この頃になると、私にとって「読書」とは「文学に浸る」とか「知識や教養を深める」という高尚さからは大きく懸け離れ、単なる「娯楽」となっていました。当時は東京勤めで、住居から職場まで通勤時間が長かったので、殺人的と云われる満員電車の鬱陶しさもなんのその、本のおかげで実に刺激的で充実した時間を過ごしていました。

「想像力」（正しくは「妄想癖」）も逞しくなり、とにかく行間から映像が次から次へと浮かび、私にとっての、「はてしない物語」の「Fantasia」は最高潮となっていました。

それがいつの頃からか、本はほとんど読まなくなってしまったのです。何故か？一つには地方勤めとなり職場から徒歩 10 分位の住居暮らしが多く、読書に費やしていた通勤時間が殆ど無くなったのも一因だと思います。それなら家で読めば？とお思いでしょうが、加齢のせいかな年々老眼も進み、長時間読んでいると頭痛がしてくるという悲惨な毎日です。何だかんだと他のせいにはしていますが、結局は「読書欲」が消え失せたのだと思います。毎年、芥川賞・直木賞などの発表がありますが、何となく無関心になってきています。そのせいか最近「想像力」が衰えているなど実感しています。職場で仕事の書類を読んでも全く映像というものが浮かんで来ないのは何故でしょうか？「Fantasia」の崩壊です。

今回の原稿作成が刺激となったのか、不思議と今「読書欲」が湧いてきています。既読本の読み返しでも良いと。転勤族のため引越が多く、その度にかかりの本を処分していましたが、数人の作家の本は捨てきれず残してしまいました。読み返す時期が必ず来るといふ思いがどこかにあったのかも知れませんが、夢中になって読んでいた当時の想い出に耽けながら、二度目の津軽での生活を迎えているのも何かの縁だと思い、まずは太宰から始めようかと考えております。読書の秋に向け、早速、ピントのあった老眼鏡を買い求めに眼鏡屋に走りたいと思います。

（かとう けん）

# 第3回POPコンテスト

弘前大学附属図書館では、図書館の利用促進や読書推進を目的として第3回POPコンテストを開催いたしました。今回は26点のPOP応募があり、作品は全て該当図書と共に館内特設ブースに展示されました。そして、一般利用者を含む図書館利用者からの投票、および専用投票Webページからの投票によって、全6作品の入賞が決定しました。

表彰式は11月15日（水）に附属図書館本館にて行われ、それぞれの受賞者に郡館長から表彰状が手渡されました。

今回は特徴的な色使いのPOPで『りんごをアップルとは呼ばせない』（黄孝春，平本和博著）の魅力アピールした人文学部4年・藤村光さんが大賞を受賞し、目を引くイラストとキャッチコピーで『学力の経済学』（中室牧子著）を紹介した人文学部4年・澤田悠祐さんが優秀賞を受賞しました。その他3名の方が、それぞれ工夫をこらしたPOPで佳作を受賞しました。

また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、特別賞としてサンライズ産業(株)賞を設けました。サンライズ産業(株)賞は、POPにこぎん刺しの模様を縫いこみ『ことりつぶ 弘前：津軽・白神山地』を紹介した教育学部1年・小池亜摘さんが受賞し、(サンライズ産業(株))工藤代表取締役から表彰状が手渡されました。

受賞者からは、「まさか自分が受賞するとは思っていなかったので嬉しい」という喜びの声や、自分がPOPで紹介した本がどんなに魅力的な本なのかが語られました。

受賞者の皆さん、誠におめでとうございます。来年度も引き続きPOPコンテストを開催する予定ですので、学生の皆さん、ぜひ応募してください。

(情報サービスグループ 本多 高穂)



郡館長（前列右）、サンライズ産業(株)工藤代表取締役（前列左）と受賞者



## 大賞

人文学部4年 藤村 光さん

『りんごをアップルとは呼ばせない：津軽りんご人たちが語る  
日本農業の底力』

今回、はからずも大賞をいただきましたこと、大変うれしく思います。私がこのような喜びを得ることができましたのは、アドバイスや投票をしてくださった方々、企画運営に携わられた図書館の方々、協賛企業様のおかげです。本当に心から感謝を申し上げます。

私はりんごが大好きで、図書館で「りんごをアップルとは呼ばせない」を見た時に、りんご≠アップルとはどういうことだろう、とタイトルに興味を持ちこの本を手に取りました。この本には、日本、特に青森のりんご産業の歴史や概要が分かりやすく書かれています。また、関係者の人たちの生の声もたくさん載っていて、りんごを作っている人たちの強い思いやこだわり、そしてその魅力について知ることができ、とても面白いです。この感動をより多くの方々に知っていただきたいと思い、POPを作るのは初めてでしたが「りんごをアップルとは呼ばせない」で応募しようと思いました。

POPのポイントは、大きく2つあります。1つ目は、りんごを背景にしつつ、文字も少なくし、シンプルにしたことです。2つ目は、農家が生き残っていくために、りんご（ジュース含む）の海外輸出において様々な工夫をしてきたという一連の流れを戦争に見立てて「青森 VS 世界」と表現したことです。少しでも、POPや本の内容に興味を持った方は、是非読んでみてください。



## 優秀賞

人文学部4年 澤田 悠祐さん

『「学力」の経済学』

この度は『「学力」の経済学』で優秀賞をいただけたこと、とても感謝しております。投票してくださった方々、ありがとうございました。

私がこの本を薦めたいと思った理由は、弘大生が将来的に根拠に基づいて子供を教育するようになってほしいと思ったからです。私自身、「ゲームをするな!」と親の言うことが絶対だと思って教育されていましたが、それは親の主観であって学問的に何か根拠があるわけではありません。実際にこの本でもゲームをやめさせても勉強するようにはならないと書いています。子供は「自分で調べて考える」という能力を持つ前は、親や家族が絶大の権力者になります。無知な子供に対して教育する際には親自身がしっかりと学ぶ必要があると感じていたので、この本でPOPを書こうと思いました。毎年POPコンテストに応募されるPOPは繊細で、画力があるものが受賞すると思っていたので、逆に目を引くようなイラストとキャッチコピーで仕上げました。

最後に、私のPOPを見てくださった方々、企画運営に携わられた図書館の方々、協賛のサンライズ産業株式会社様に深く感謝します。ありがとうございました。



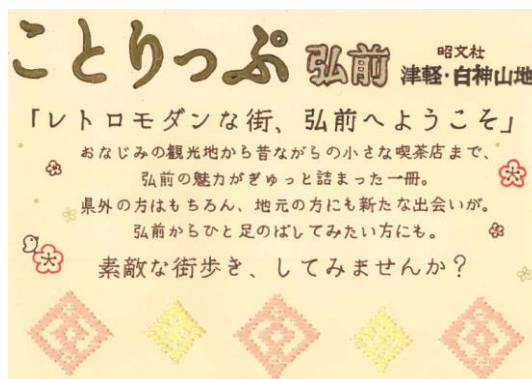
サンライズ  
産業(株)賞

教育学部1年 小池 亜摘さん  
『弘前：津軽・白神山地』

私が「ことりっぷ 弘前：津軽・白神山地」でこの POP コンテストに応募したきっかけは、私が大好きな弘前の魅力を、もっと多くの方に知ってもらいたいと思ったからです。そのため、今回この賞をいただくことができて本当に嬉しかったです。

私がこの本に出会った時、まず初めに惹きつけられたのは表紙のデザインでした。POP を作る時に、本の内容はもちろんデザインの魅力も伝えたいと思い、色合いや、文字の雰囲気を表紙にあわせて制作しました。この本の表紙で特徴的なのは、津軽地方の伝統工芸であるこぎん刺しの模様なので、POP にも実際に糸を使い、こぎん刺しの図案の模様を縫い付けてみました。今までこぎん刺しの経験は学校の授業で教わったほどしか無かったので、なかなか上手いかず苦戦しましたが、紙と違う素材を生かすことでこの本のあたたかみのある雰囲気を伝えられたと思います。

私はこの本を県外から来た方はもちろんですが、弘前出身の方にこそ読んでほしいと思っています。私も弘前出身なのですが、この本には自分が今まで知らなかったお店や、行ったことのない観光地など魅力的な弘前がたくさん紹介されていました。今回の POP を見て、より多くの方にこの本を手にとっていただけたら嬉しいです



佳 作

人文学部3年 高森 勇汰さん  
『ハリー・ポッターと秘密の部屋』

コンテストに応募しようとしたきっかけは、図書館でアルバイトしていることもあり、いつもそのチラシを目にしていて興味を持ったからです。また、ハリーポッターの1作目ではなく、2作目にした理由は、前回の POP コンテストで1作目を書いたということもありますが、2作目のほうが自分的にストーリーが好きで、内容が入ってきやすかったからです。

自分はすごく絵が下手で、今回の作品も全然大丈夫でなく、少し提出するのが恥ずかしかったというのが本音です。実際、提出してみてもほかの人たちの POP が上手すぎて自分の作品がどう見ても浮いているのが目に見えてわかりました。絶対入賞はないと思っていました。しかし何度か、自分の作品への投票の途中経過を見に行っていると、思った以上に票が入っていて驚きました。そして、結果を見ると自分の作品が入賞していて、驚きと同時に嬉しさがとてもありました。今まで、絵で賞を取ることはなく、今回が初めての経験だったので、とてもいい経験になりました。



## 佳作

教育学研究科1年 田 露さん

『愛しのオクトパス：海の賢者が誘う意識と生命の神秘の世界』

この度は、POP コンテストの佳作にお選びいただき、誠にありがとうございます。皆さんの素敵な作品を見て、賞は自分に縁のないものと思っておりましたので、授賞の通知を受けて、驚きました。『愛しのオクトパス—海の賢者が誘う意識と生命の神秘の世界』という本はタコほど人間とかけ離れた動物はそうそういない——タコについて専門的な知識もほとんどなかった著者が、ある日ボストンの水族館で1匹のタコと出会うという物語です。この本は外国人の私にとっても非常に読みやすく、面白い本です。



POP デザインについては、可愛いらしいタコを描きました。タコは深海に住んで怖い物ではなく、魂を持ち人間と変わらない生き物です。読者にもっと本の内容を理解させる為に、コピーは

{ タコは三つの心臓が脈打っている。 タコは自分の考え方がある。

タコはユーモアがわかる タコは命の最後に恋をする タコのハグは世界一  
タコは人間と同じ魂を持っている。 } を使いました。

POP を通じて、たくさんの方に読んでいただければやりがいを感じます。本当にありがとうございました。

## 佳作

教育学部2年 色摩 優希さん

『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』

『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』—明日死ぬのに、なぜ他のものに目を向けなければいけないのか？—ふと、そんな疑問が脳裏をよぎり、やがてそれはこの本を読みたいという感情に変わっていきました。いざ読み進めていくと、自分の中にあった不安定な土台が崩壊し、頑丈な土台が形成されていくような感覚を覚え、是非この本を他の人と共有したいと思いました。

POP を作るにあたって、どうすればこの死生観を題材にした自己啓発本を他の人にも読んでもえるのか悩みました。悩んだ挙句、僕は本を読む前の自分の姿を描くことに決めました。カオナシです。自分が何をしたいのかわかっていないカオナシは、人生の役割や使命がよくわかっていなかった自分に重なったのです。今、僕と似たような状態にある人には是非この本を読んでほしく、カオナシのイメージがそういう人たちに何か訴えかけることができれば幸いです。



最後に、企画運営をしてくださった附属図書館関係者並びにサンライズ産業(株)の方々本当にありがとうございました。また、このPOPに投票してくださった方々にもお礼を申し上げます。



# 本との出会いを楽しむ 第19回

## 歴史小説に生き方を学ぶ

サンライズ産業株式会社代表取締役

工藤博文



私は、昭和 52 年に弘前大学人文学部経済学科を卒業し、弘前市役所に勤務しました。今も学籍番号を覚えています。学生時代は思い出に溢れています。市役所に 25 年間勤務した後、前年亡くなった父の後を継いで、サンライズ産業株式会社に入りました。会社は私が学生時代にアルバイトをした、電話帳配達がきっかけで運送事業をしていました。以来 15 年間で 600 名の従業員を抱え、東北 5 県に営業所を構えるまでに成長できました。大学を卒業してもう 41 年が経ち、22 歳の青年も 63 歳の老人になりました。時間の経過に今さらながら驚いております。

学生時代の思い出は、よく図書館で本を読んだことです。公認会計士になりたいという夢もあり、会計の勉強もしました。歴史小説が好きで、吉川英治、司馬遼太郎の作品を無我夢中で読みました。主人公に自分を重ねては、ワクワクしたものです。吉川英治の作品では「宮本武蔵」、「三国志」が、司馬遼太郎では「国盗り物語」「関ヶ原」「峠」「坂の上の雲」などが記憶に残っています。読書の後、小説の舞台となった地を求めて、岐阜や、長岡、関ヶ原など多くの場所にも出かけました。

読書で学んだことが、直ぐに役に立つとは限りません。しかし、主人公や先人の考え方、生き方を多く学ぶことができました。それは大きな力となって、私の人生や事業の役に立ちました。人生

には決断を迫られる場面があります。人生は選択の連続なのです。読書で得た知識はその時の判断の大きな助けとなりました。宮本武蔵だったらどう対応するだろうか？「峠」の主人公河合継之助だったらどうしただろうか？など。誤った選択は人生をも変えてしまいます。幸運にも今まで大きな判断違いは無かったようです。

先日テレビで元巨人軍長嶋茂雄監督の特集を見ました。選手時代監督はオフシーズンには一人で山にこもり鍛錬をしていました。その監督の言葉に、「雨の日は雨を喜び、風の日には風を楽しむ。」というのがありました。吉川英治にも「晴れた日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。」という名言があります。似ています。勝負師として選手であった監督は、吉川英治の作品を読んでいたのかも知れませんか？監督に会う機会があったら聞いてみたいと思います。(私のような者は会えない可能性が高いのですが…)

今私はあまり本を読まなくなりました。事業が忙しくて時間が無いのは言い訳で、読めなくなったのです。老眼になったせいもあります。だからこそ、若いうちに本を読んで欲しいと思います。学生の頃、先生から「読書は心の栄養である」と教えられました。名言です。良い本の読書は、きっといつか役に立ってくれます。

(くどう ひろふみ)

「司馬遼太郎全集」をはじめ、司馬遼太郎の著作は多数所蔵しています。ご紹介いただいた「国盗り物語」「関ヶ原」「峠」「坂の上の雲」は、「司馬遼太郎全集」の 10・11、14・15、19・20、24-26 に、それぞれ収載されています。

所在：和図書(第 1 書庫 2-5F) 請求記号：918.68||Sh15||〇〇 ※〇〇は巻数  
吉川英治の著作については、「吉川英治集」(昭和文学全集 26)等を所蔵しています。

所在：和図書(第 1 書庫 2-5F) 請求記号：918.6||Ka16||26

## 図書館に関する話題 第19回

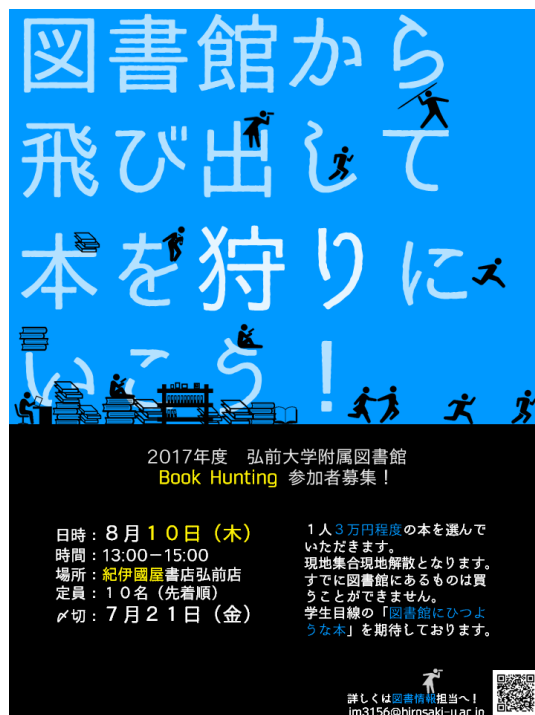
### Book Hunting 開催

附属図書館資料管理グループ係長 佐々木 忠

8月10日(木)、紀伊國屋書店弘前店にて、Book Huntingを開催しました。Book Huntingというのは、学生が直接書店に出向いて、図書館に置いてほしい図書をその場で選ぶという企画で、選書ツアーと呼ばれることもあります。2008年頃より、多くの大学図書館で行われるようになりました。弘前大学附属図書館では、今回が初めての開催になります。

本館において購入する学生用図書は、各学部の教員に推薦を依頼したものが大部分を占めています。図書の選定方法ごとに貸出率を調査してみたところ、学生の選定で過去に購入された図書の貸出率が高いことがわかりました。(豊泉44号・45号参照) 今回のBook Huntingは、その調査結果を受けて企画されたものです。

先着10名の参加ということで募集をしたところ、最終的に6名の方が集まりました。内訳は人文学部4名・医学部2名で、所属学部には偏りが見られました。




図書館から  
飛び出して  
本を狩りに  
いこう!

2017年度 弘前大学附属図書館  
Book Hunting 参加者募集!

日時: 8月10日(木)  
時間: 13:00-15:00  
場所: 紀伊國屋書店弘前店  
定員: 10名(先着順)  
〆切: 7月21日(金)

1人3万円程度の本を選んでいただきます。  
現地集合現地解散となります。  
すでに図書館にあるものは買うことができません。  
学生目線の「図書館にひつような本」を期待しております。

詳しくは図書館担当へ!  
jin3156@hirosaki-u.ac.jp



参加者募集ポスター

選定作業は13時から15時までの2時間、途中休憩を挟んで行われました。書店の奥に選定した図書を置くためのテーブルが設置され、参加した学生は、用意された買い物籠を手に、思い思いに図書を選んでいました。主に専攻分野の図書を選ぶ人、文学作品を中心に選ぶ人、趣味に関する図書、書評などで話題の図書を選ぶ人と、多彩なラインナップとなりました。あらかじめ候補のリストを作ってきた人や、興味を引かれた図書をその場でどんどん選んでいく人など、選び方にも個性が見られました。事前に「雑誌、漫画、アイドルの写真集等は



選定中の様子



対象外」としていたのですが、グレーゾーンと思われる図書は、職員の判断を仰ぐということにしました。

なお、学生による選定としては現在、本館と医学部分館、共に購入希望図書の制度があり、図書館に入れて欲しい図書をリクエストすることができます。Book Hunting には、購入希望図書と比べて、冊数の制限がない(合計金額の制限はあり)、実際に図書を手にとって選べる、申込書を書かなくてもよい、といったメリットがあります。



参加した学生と選書した図書



本館新着図書コーナーでの展示

今回の Book Hunting で選んだ図書は、各館の新着図書コーナーに展示しました。また、附属図書館のホームページに図書のリストを(下記アドレス参照)掲載し、ワンクリックで貸出状況や所在を検索できるようにしました。



今年度第2回目の Book Hunting を11月29日、ジュンク堂弘前店で開催しました。来年度も継続して開催する予定としておりますので、多数の参加者の応募を期待しております。

### Book Hunting 選書リスト

[http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/BookHunting/2017\\_01BookHunting-list.pdf](http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/BookHunting/2017_01BookHunting-list.pdf)

(ささき ただし)

# デジタル・アーカイブの紹介

## 「阿仁鉱山関係絵図」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「阿仁鉱山関係絵図」は5枚の絵図からなる資料で、1965年、弘前大学の旧文理学部改組の際に、東京の古書店より購入したとされています。阿仁鉱山とは一つの鉱山を指すのではなく、六ヶ山と呼ばれた複数の鉱山および精錬所の総称です。秋田県には数多くの鉱山がありましたが、阿仁鉱山はその中でも銅の産出高日本一になったこともある全国有数の鉱山で、江戸時代に秋田藩の直轄となりました。現在は資源の枯渇により休山となり、立ち入り不可となっています。この5枚の絵図は、六ヶ山のうちの一の又と二の又、そして阿仁銀山町を描いており、当時の姿を示す貴重な資料です。

絵図は、色が褪せたり、折り目部分から傷んだりと劣化の危険性が高い資料であるため、貴重資料として閲覧利用には制限を設けていることから、誰でも見られるよう、デジタル化してインターネット公開することとしました。画面下部に5枚をサムネイル表示し、クリックした絵図を大画面に表示するようにしています。解説文も、現在大画面表示になっている絵図に対応したものがそれぞれ表示されます。いずれの絵図も回転機能と拡大機能が使用できます。

絵図の中で最も広い範囲を描いた「阿仁鉱山一の又全図」には、方位と地理的な目印が示され、御台所（鉱山事務所）や蔵、神社・堂、役人および舗主（しきぬし）・本番主や坑夫たちの住居が見えます。建物の形態が精細に描き分けられ、正確に表されています。住居については、「舗主理助」、「床大工万助」のように職種と名前の両方を記し、鉱山における各職種の者が住んでいたことを明示しています。当絵図は、藩政後期に秋田藩が山領内の建物や住居の分布状況を詳しく把握するために公的な目的で作成した絵図であり、詳細な鉱山絵図として貴重な価値を持つと考えられます。



阿仁鉱山一の又全図

「阿仁鉱山一の又山舗図」「阿仁鉱山二の又山舗図」は、それぞれの山の鉱脈（舗）を示した絵図です。川や街道、橋、建物などが描かれた中に、朱線で個々の鉱脈が描き込まれており、鉱脈が平行に何本も走り、また分岐している様子を見ることができます。

「阿仁鉱山一ノ又山境図」は図内に書かれている用語から、近代のものと推定されます。鉱山の範囲を黒線で囲い、その中に採掘場と想定される面積と澤名が書かれていることから、採掘権の確認のため作成したものと考えられます。

「阿仁銀山町絵図」は、図中に「銀山上新町」「銀山下新町」「島町」「寺」「愛宕社」「山神社」「行人」「神明社」等の記入が見え、藩政時代の阿仁鉱山の町方の様子を伺い知ることができます。

### 参考資料

- ・「豊泉」第34号 p.5-6 「秋田阿仁鉱山関係絵図について」（長谷川成一著）
- ・「阿仁鉱山一ノ又山全図」の解析・考察を中心とした「秋田阿仁銀山之絵図」（弘前大学附属図書館蔵）の研究」土屋絃子著、弘前大学大学院地域社会研究科年報第2号、p.1-23、2005年



# Library News

## 講演会とタイアップした図書展示

下2つの写真は、平成29年5月11日（木）および10月18日（水）に弘前大学で行われた学術講演会と、タイアップして行った展示の様子です。講演者の著書など関連図書を展示し、POPも付けました。ポスターも、講演会のポスターそのままではなく、図書の展示用に別途作成したものです。

どちらの講演会も盛況で、300名収容のホールがほぼ満員となったそうです。展示した図書も、その多くが借りられていました。



## タブレット(iPad)の館内貸出について

本館では11月1日（木）より、タブレット（iPad）の館内貸出を始めました。利用は電子書籍や電子ジャーナルなどの閲覧に限り、閲覧制限をかけていますので、ネットサーフィン等はできません。利用を希望される方は、1階サービスカウンターにて利用証を提示し、貸出手続きをしてください。学内者のみ対象で、当日中の利用となります。

## 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成29年4月～平成29年9月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	数	所蔵先
人文社会 科学部	荷見守義	越境者の世界史：奴隷・移住者・混血者	春風社	1	本館 1
		情報の歴史学	中央大学出版部	1	本館 1
		永楽帝：明朝第二の創業者	山川出版社	1	本館 1
		様々な変乱の中国史	汲古書院	1	本館 1
		明代遼東と朝鮮	汲古書院	1	本館 1



人文社会 科学部	上條信彦	五月女菴（そとめやち）遺跡（第1分冊）	五所川原市教育委員会	1	本館 1
		五月女菴（そとめやち）遺跡（第2分冊）	五所川原市教育委員会	1	本館 1
		五月女菴（そとめやち）遺跡（第3分冊）	五所川原市教育委員会	1	本館 1
		八郎潟沿岸における縄文時代晩期末の研究：下台遺跡発掘調査報告書	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	1	本館 1
	保田宗良	青森県地域の消費者教育推進のための研究（2016年度）	弘前大学人文社会科学部地域未来創生センタープロジェクト事業報告書編集委員会	1	本館 1
	木村純二	折口信夫--いきどほる心	講談社	1	本館 1
	尾崎名津子	織田作之助論：「大阪」表象という戦略	和泉書院	1	本館 1
	須藤弘敏	法華経写経とその荘厳	中央公論美術出版	1	本館 1
教育学部	蝦名敦子	小学校におけるアート空間に関する研究：材料・場所・空間の問題を中心として		2	本館 2
医学研究科	横山良仁	水沼英樹先生退任記念業績集	弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座	1	分館 1
	田中幹二	妊娠高血圧症候群の診療指針：best practice guide（2015）	メジカルビュー	1	分館 1
	麻醉学講座	弘前大学大学院医学研究科麻醉科学講座開講50周年記念誌（1965年-2016年）・業績集（1999年-2015年）	弘前大学医学研究科麻醉学講座	2	本館 2
保健学研究科		弘前大学大学院保健学研究科高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト活動成果報告書（平成27年度）	弘前大学保健学研究科	1	本館 1
名誉教授	作道信介	人間科学研究法ハンドブック	ナカニシヤ出版	1	本館 1
弘前大学出版会		植物細胞壁実験法	弘前大学出版会	2	本館 2



弘前大学附属図書館報「豊泉」第46号 発行日：平成29年11月30日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より